

公益社団法人日本包装技術協会

2026年度 活動方針

わが国を取り巻く情勢として、国内においては燃料費等の高騰や長引く円安基調により物価高が続き、個人消費の伸びが抑えられている。また企業においては人手不足や人件費の高騰により事業拡大が困難な状況が続いている。

国際情勢においても、米・中・欧の政策次第により、わが国経済に多大なる影響を与えかねない駆け引きが大陸間で展開されている。

わが国包装界を取り巻く環境は上述により厳しい環境下にあることに加え、サステナブル社会の構築に向け、一層の改善合理化、新技術の開発、垣根を超えた情報共有が求められている。

当会ではこれらの状況を踏まえ、環境問題など国内外の最新情報を収集し発信するとともに、新たな包装教育の場を創造し、わが国包装技術の向上と企業を支える包装人材の安定確保を目指す必要がある。これらにより、次の事項を重点とした諸活動を展開する。

1. 国内外包装情報の収集。発信、並びに包装人材の育成

国内における包装の改善・合理化事例、環境問題動向・新技術の紹介、更には海外包装事情等、当会の国内外ネットワークを駆使し、会員企業に対し情報提供を行う。

また、包装技術の継承、発展に繋げるための包装人材育成活動を当会本部・支部において断続的に展開する。

2. サステナブル社会へ向け、業種を超えた共通認識を高める

包装におけるメーカー、ユーザーにより構成される当会の特性を活かし、包装の使用者であるブランドオーナー等の業界ユーザーと、リサイクルに取り組む企業・団体等との情報の共有化を図るために、独自の講習会・勉強等を開催し理解を深める活動を行う。

3. 包装産業への就労機会の創出と大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向けての取り組み

国内労働人口の減少が続く中、包装業界においても人手不足の問題が企業の成長に影を落としている。特に若い世代に包装業界そのものが浸透していないこともあり、若い力の確保が困難となっている。このことを踏まえ、日本包装学会を中心とした関係団体・機関と協力のもと、諸外国では普通となっている国内大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向けての取り組みを行うとともに、消費者への包装業界認識向上へと繋げて行く。

4. 継続的な包装標準化への取り組み

国内包装業界の健全な発展に向け、J I S規格の制定・改訂作業を会員代表企業並びに各界専門家の協力を仰ぎ継続的に審議を行う。

また、I S Oにおいては、I S O/T C 1 2 2(包装)の議長及び国際幹事国として国内意見の取り纏め、並びにI S O事務局への提案のほか、他国からの提案へのコメントを確実にを行い、国際標準化に向けた取り組みを行う。

5. TOKYO PACK 2026開催による最高レベルの包装技術の発信

今回で31回目の開催となるTOKYO PACK(東京国際包装展)は、展示会場の大規模改修工事により、展示ホールを1ホール減らしての開催となるが、1社でも多くの出展希望を可能とし、また、併催企画行事等の充実により、出展社並びに来場者の満足度を高め、世界に向けてTOKYO PACKの存在感をアピールして行く。

2026年度(令和8年度) 事業計画

第1. 事業

1. 研修、育成事業、交流事業、普及啓発事業（公益目的事業1）

<研修、育成事業>

研修事業は、各催事のカリキュラム内容・開催時期などから、開催方式を Web オンライン・実地集合対面・ハイブリッド開催など、ニーズに合わせて展開していく。

各種包装人材育成事業の中の包装管理士講座は本年で61回目の開講を迎える。開講方式は座学はオンライン、合宿は対面で行う。出願に関しては電子化を進め、出願者の利便性と事務局の作業効率を向上させる。なお出願受付は地域別（東京、名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌）にて行い、合計445名で実施する。

包装分野においてトップレベルの内容で実施されている包装専士講座は、引き続き輸送包装コース、食品包装コース、包装材料コース及び医薬品包装コースの4コースで合計45名にて実施する。

包装に携わる人々に求められる知識や技術を提供する人材育成コースと、内外の最新情報の提供を目的として実施されるセミナーは、オンラインと対面のスタイルを催事内容に合わせて選択し開催する。それぞれ時代に合わせた内容が多いが、昨今の環境問題を背景とした持続可能な社会を目指した包装及び関連技術の開発動向や、生活者にとっての安全・安心や利便性の向上などを目指し開発された包装商品の事例等を主なテーマに本年も開催できるよう計画を進めて行く。又、これらの事業は支部別に地域のニーズに合わせて開催しているが、地域のニーズを盛り込んだ内容となるよう取り組んで行く。なお、すべての内容は当会のホームページで一般公開されており、包装に関心を持つ一般の方々も参加が可能である。

1) 第61期包装管理士講座 本部・支部 7月開講～11月終講（うち12日間）

開催地：集合・合宿研修 ロワジュールホテル豊橋（コース別に対面で実施）

一般講義 受講者の職場や自宅（オンライン受講希望者）

AP 日本橋（対面受講希望者）

定員：445名

地域別募集枠 東京 220名 大阪 100名

名古屋 65名 福岡 30名

仙台 15名 札幌 15名

合格証書授与式（地域別開催） 12月～1月

東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌

2) 2026年度包装専士講座 東京本部

6月開講～3月終講 共通教科4日、専門教科10日

開催地：合宿 湘南国際村センター

コース別座学 東京（JPI 会議室・外部会議室）

定員：45名（4コース合計）

(1) 第39期輸送包装コース (2) 第40期食品包装コース

(3) 第39期包装材料コース (4) 第38期医薬品包装コース

3) 研究大会

(1) 第64回全日本包装技術研究大会 新潟大会

開催日：3月4日(木)～5日(金)

開催地：朱鷺メッセ(新潟県新潟市)

定員：250名

4) 講習会(無料)

(1) JPI WEB フォーラム 本部・支部 4月～3月 年36回予定

オンライン開催 定員：300名

配信予定：東京本部15本 関西支部8本 中部支部8本

西日本支部2本 東北支部2本 北海道支部1本

(2) その他講習会

東京本部

包装情報ステーション 年2回 オンライン開催

中部支部

包装技術講習会 9～10月開催予定 ウィンクあいち

西日本支部

2026年度日本包装技術協会総会説明会特別講演 8月開催予定 西鉄イン福岡

東北支部

包装研究講演会 3月開催予定 江陽グランドホテル

5) 研修コース(有料)

東京本部

(1) 第32回包装新人研修コース

4月開催予定 JPI 会議室 定員30名

(2) 第59回包装基礎コース

5月開催予定 外部会場 定員90名

(3) 第4回循環型包装コース

9月開催予定 オンライン 定員80名

(4) 第48回段ボール包装設計コース

2月開催予定 JPI 会議室 定員30名

関西支部

(1) 第33回包装基礎コース

5月13日(水)～15日(金) ハートンホテル北梅田

(2) 第53回段ボール包装設計実習コース

10月29日(木)～30日(金) ハートンホテル北梅田・アイロップ(株)

(3) 第20回緩衝包装設計実践コース

12月4日(金) 大阪産業技術研究所

中部支部

- (1) 2026年度包装設計の基礎講座
5月14日(木)～15日(金) 愛知県技術開発交流センター
- (2) 第43回フレキシブルパッケージコース
10月～12月開催予定 JPI 会議室
- (3) 第17回食品包装コース
2月開催予定 オンライン

6) セミナー、シンポジウム (有料)

東京本部

- (1) 化粧品包装セミナー
7月開催予定 東京都内会議室又はオンライン
- (2) 包装材料セミナー
1月開催予定 東京都内会議室又はオンライン
- (3) 医薬品包装セミナー
3月開催予定 東京都内会議室又はオンライン
- (4) 包装近未来シンポジウム
3月開催予定 東京都内会議室又はオンライン

7) 講演会・発表会

東京本部

- (1) サステナブル社会に向けての取り組み・現状 (紙リサイクル)
5月26日(火) AP 市ヶ谷
- (2) 2026パッケージングフォーラム
10月 TOKYO PACK 2026にて開催

中部支部

- (1) 2026日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会
12月開催予定 ウィンクあいち
- (2) 第66回包装技術研究大会中部大会
2～3月開催予定 ウィンクあいち

西日本支部

- (1) 包装事例研究発表会(2026日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会)
12月開催予定 オンライン開催 (西日本支部・東北支部共催)
- (2) 包装事例研究発表会(包装管理士講座合格者)
1月開催予定 西鉄イン福岡

北海道支部

- (1) 第61期包装管理士合格者レポート発表 1月開催予定
- (2) 新春研究会 1月開催予定

東北支部

- (1) 東北支部包装技術研究発表大会 12月18日(金) 江陽グランドホテル
- (2) 新春講演会 2月8日(月) 江陽グランドホテル

8) 包装懇話会 (年間登録メンバー制)

東京本部

- (1) 食品・流通包装懇話会 6月・9月・12月・2月
- (2) 医薬品包装懇話会 6月・9月・11月・2月
- (3) パッケージデザイン懇話会 6月・8月・11月・2月
- (4) 輸送包装懇話会 7月・9月・11月・2月

関西支部

- (1) 生活者包装研究懇話会 年3回予定(内 見学会1回)

<交流事業>

本年度も昨年度に続き国内、海外ともに新型コロナウイルス感染症の影響下にあるため、当面の間はオンライン開催可能な会議会合を行いつつ、実地見学と対面会合は各地の事態収束状況に応じて受入先より実施応諾の得られたものから、漸次開催する。

1) 国内事業

(1) 見学会

- | | | |
|--------|------------|--------------------|
| ①東京本部 | 関東圏企業・施設 | 年3回予定 |
| ②関西支部 | 関西圏企業・施設 | 年1回予定 |
| ③中部支部 | 東海地方及び隣接地域 | 年1回予定(見学会/包装研究懇話会) |
| ④西日本支部 | 九州及び西中国地方 | 年1回予定 |
| ⑤北海道支部 | 北海道内企業 | 年1回予定 |
| ⑥東北支部 | 東北地方企業 | 年1回予定 |

2) 海外交流事業 (公益目的事業 1) 東京本部

(1) アジア包装連盟 (APF) との連携

- ①APF 戦略会議: 6月中旬(タイ・バンコク)
- ②理事会、総会、アジアスター審査及び表彰式: 11月(インド)
- ③アジアスター2026オンライン審査: 11月を予定

(2) 世界包装機構 (WPO) との連携

- ①前期行事: 5月上旬(ドイツ・デュッセルドルフ)
前期理事会、ワールドスター2026表彰式、ワーキンググループ等
- ②後期行事: 11月(中国)
後期理事会、コンフェレンス等
- ③ワールドスター2027オンライン審査 12月を予定

(3) 国際包装研究機関連絡会 (IAPRI) との連携

(4) 包装視察団の派遣

- ① 2026年5月7日(木)～13日(水)ドイツ・デュッセルドルフにて開催される国際包装展 **interpack** に包装視察団を派遣予定。
- ② 2026年6月10日(水)～13日(土)にタイ・バンコクにて開催される国際包装展 **PROPAK ASIA** に包装視察団を派遣予定。

(5) 海外からの来日包装関係者の受け入れ

- ① ミシガン州立大学包装学部、ロチェスター工科大学 学生訪日研修（5月中旬予定）への協力：日本包装技術協会では研修先の選定等、運営サポートを行う。
- ② クレムゾン大学包装学部への協力：TOKYO PACK 2026 への学生視察団訪問に対し、サポートを行う。

<普及啓発事業> 東京本部

本事業の中心となる日本パッケージングコンテストは、経済産業省、日本商工会議所、主婦連合会等の後援のもと、毎年開催されている。一般に対してもホームページからの募集を行っており、参加が可能である。本年度も大学、公的機関及び消費者団体の方々に構成された審査員によって選ばれた入賞製品をグッドパッケージとして（最高賞は経済産業大臣賞）「TOKYO PACK 2026」の会場において一般公開する。昨年度までと同じ内容で開催し選ばれたパッケージは、すべてその特長が写真付きで広報される。

木下賞は、授与された包装製品がその年の最高技術水準にあることもあり、近年では、これらの包装には生活の向上や環境負荷の低減等の意味から消費者も大変関心を示している賞である。

今年度で第50回を迎える同賞は、官学及び民間からの有識者が審査員が構成され、募集はホームページを通して一般にも公開されるので誰でも無料で応募できるが、審査基準は大変高く厳しいものとなっている。

受賞作品は月刊機関誌「包装技術」に特集で掲載されるほか、「TOKYO PACK 2026（2026 東京国際包装展）」で一般にも公開される。

1) 第50回木下賞

審査選考：5月15日（金）

2) 2026日本パッケージングコンテスト

審査選考：6月5日（金） 表彰式：9月9日(水)

3) 2026グッドパッケージング展（TOKYO PACK 2026 内）

10月14日（水）～16日（金）

2. 展示会事業（公益目的事業 2） 東京本部

1) TOKYO PACK 2026 開催

TOKYO PACK 2026 は、本年10月14日（水）～16日（金）までの3日間、東京ビッグサイトにて開催する。「包みの技術で 世界に優しさを」を開催テーマに、一層の生産・包装・流通の技術振興を図るとともに、相談や交流及び包装の最新情報発信の場として、国際的な視野に立ち、社会の発展に貢献できるよう諸準備を進めていく。

今回は東京ビッグサイトの大規模改修により展示面積が大幅に減少するが、会期中開催する企画展示やセミナープログラム等を充実させ、来場者の更なる包装力向上、そして我が国包装産業の活性化に寄与できるよう努めていく。

また、若年層を中心とする包装産業への就労機会を創出するために、関係団体や教育機関などと連携し、包装産業の魅力を発信し、人材の確保に繋げる活動も実施する。

名 称：TOKYO PACK 2026 - 2026 東京国際包装展 -

Tokyo International Packaging Exhibition 2026

会 期：2026年10月14日（水）～16日（金） 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東1～3, 7, 8ホール

開催テーマ：包みの技術で世界に優しさを Innovative Packaging Technology

~The link between our future planet and generations~

特別協力：一般社団法人日本包装機械工業会

後 援：経済産業省 他7団体（申請予定）

協 賛：包装関連団体 100団体

出展内容：包装資材・容器 包装機械 印刷・包材加工機械 食品・医薬品・

クリーン関連機材・検査・計測・環境関連機材 包装デザイン・サービス

次世代テクノロジー・物流・MH・包装ソリューション 海外出展

併催行事：2026 グッドパッケージング展、2026（第50回）木下賞受賞作品展

出展社による最新包装技術セミナー、パッケージデザインパビリオン2026、
パビリオン

併催事業：パッケージアカデミア

大学生及び学生が包装を共に学び交流する場の創出

2) ①国内主要展示会での TOKYO PACK 2026 PR ブース参加

以下の国内展示会にてプロモーションを予定している。

- ・4月22日（水）～25日（土）：2026 中部パック（ポートメッセなごや）

②海外主要各国の国際包装展での TOKYO PACK 2026 PR ブース参加

以下の海外展示会にてプロモーションを予定している。

- ・3月31日（火）～4月3日（金）：KOREA PACK（韓国・ソウル）
- ・5月7日（木）～13日（水）：interpack（ドイツ・デュッセルドルフ）
- ・6月10日（水）～13日（土）：ProPak Asia（タイ・バンコク）

3) 暮らしの包装商品展 2027

暮らしの包装商品展は、包装が果たす役割や重要性について、理解を深めていただくことを目的とする生活者を対象とした普及啓発事業である。国民生活における包装の役割や最新の技術動向、各企業での取り組み、そして循環型社会の構築に向けて、生活者と包装関係者が共に集い、より良い包装について共に考える場として、毎回多くの生活者が参加し盛況に開催している。次回も前回以上により多くの生活者に対し、包装技術を普及啓発できるよう、会場選定や展示企画などを検討していく。

3. 調査研究事業（公益目的事業 3） 東京本部

現在、日本は、ISO/TC 122(包装)の議長及び、国際幹事国を引受けており、当協会は、包装分野の国内審議団体の他に、ISO 規格の開発・改廃を進め、これらを通じて国際間の相互理解促進に寄与している。2022年度からの事業年度（事業年度は3年間）では『『戦略的国際標準化加速事業』テーマ名：適正包装に関する国際標準化』事業を推進している。日英共同提案により2025年度に開始した「ISO 25968」アクセシブル包装設計—使用性の開発を2026年度も継続する。また、ISO/TC 122/SC4（包装と環境）の傘下においては、既存のISO 18600 規格群の大幅な改訂を目的とした AHG（アドホックグループ）が設置され、世界的な包装規制と技術の変化に対応すべく検討を進める。

これら開発事業以外にも国際幹事国として ISO/TC 122(包装)における様々な規格開発の支援を行っている。一方、「包装のアクセシブルデザイン」は、日本から提案した4つの国際規格及び JIS 規格の開発は終了し、「包装のアクセシブルデザイン」の個別規格として、JIS 新規テーマ2件の規格化の活動を行い、2024年には規格を発行した。

また、包装は国民の日常生活に深く係っており、絶えず、その標準化を見直し、生活し易い環境を整えることが求められていることから、本年度も JIS 規格の見直し作業も精力的に進める。

1) ISO/TC 122(包装)の議長・国際幹事国(事務局)としての活動

ISO/TC 122(包装)は、現在93件の規格を発行しており、P メンバー34か国、O メンバー47か国で日本が議長及び幹事国を務めている。また、TC 122 の傘下には、2つのSC（サブ委員会）と12のWG（作業部会）を擁している。現在、活動中のプロジェクトは、16件である。

2026年度は、11月にISO/TC 122 総会の開催が予定されており（開催地候補オーストラリア）、議長及び幹事国として各SC、WGにも働きかけ、開催準備を進める。

また、新規規格及び定期見直しに関わる日本及び海外からの提案、SC・WGの議長、コンビナの選任及びこれらの案件等への投票に対しては国内対策委員会に配信し、我が国としての意見をまとめ、投票とコメントの提出を行うとともに、随時開催される国際会議へ参加を促す。これらを情報共有及び審議のため、国内対策委員会を設け、委員会を開催する。

2) ISO/TC 122(包装)の国内審議団体としての調査研究及び標準開発活動

(1) 包装全般の国際規格に関する調査研究

(2) 「国際標準開発」に対する調査研究

日英新規提案

①ISO 25968 : 「アクセシブル包装設計 - 使用性」の開発

2025年度4月に新規事業としてWDと併せて提案し、6月の総会で承認された。その後、完成度を向上させて、12月にCD登録となり、2月締め切りで投票中である。

海外提案対応

②ISO 4924 : 宅配便包装におけるエコデザインの原則と適用(中国新規提案)への対応

③ISO 16103 : 危険物輸送包装ーリサイクルプラスチック材料 (改正ドイツ提案への対応)

(3) 5年を経過したISO規格の定期見直し投票 (適宜)

3) JIS 制定・改正に関する調査研究

(1) 包装に関するJISの原案作成事業の実施

①JIS S 0021-5 「包装ーアクセシブルデザインー第5部 : 集合包装用段ボール箱の重量に関する情報の表示」の制定

②JIS S 0021-6 「包装ーアクセシブルデザインー第6部 : 詰替え容器」の制定

(2) 5年経過したJISの定期見直し

4) 2025年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究

日本の包装産業出荷統計に関する調査研究は、昭和38年の創立以来欠かさずことなく継続しており、本年度も2025年の統計を刊行する。これは、機関誌「包装技術」への掲載(2026年7月号予定)、また当会WEBサイトにて公表される。

5) 包装教育高度化に関する研究・開発

(1) 大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向けての取り組み

国内大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向け、日本包装学会において2026年に新たに立ち上げる専門委員会へ当会より委員を派遣し、この活動をバックアップする。将来的には、包装企業への就職、消費者への包装業界の理解を深める流れへと繋げていく。

(2) 協会内既存人材育成事業のテコ入れ

時代の流れに沿ったカリキュラムの編成への助言

6) 関係団体への協力

他分野等での標準化事業へのサポート、委員会への委員派遣、講演による協力を行う。

4. 出版関連事業 (収益事業) 東京本部

月刊機関誌「包装技術」は、包装専門家で構成された編集委員会によって企画が行なわれており、創立以来、欠号なく刊行されている。本年度も引き続き一層の内容の充実を図りながら月刊機関誌として毎月刊行する。本誌は、包装技術及び関連情報が中心となっているが、当会事業の案内や調査研究の成果、さらに新会員の紹介等幅広い内容を掲載し公開している。本事業は収益事業として、一般による購読収入と広告収入によって進められている。本年度も引き続き編集委員会主導のもとで編集に当たる。

また、「包装技術便覧」を1995年以来の全面改訂版(第5版)として2019年2月に発刊、2022年10月には創立60周年を記念し『「包装用語 早わかり」包装用語辞典』を発刊、2024年10月には2016年以来の全面改訂版として「包装...知っとく知識 改訂2版」を発刊したことを受け、今後も包装産業界の人材教育、研究開発の一助として広報並びに販売を行っていく。

- (1) 機関誌「包装技術」の刊行 月刊(毎月1日発行)
- (2) 「包装技術便覧」の販売
- (3) 『「包装用語 早わかり」包装用語辞典』の販売
- (4) 「包装...知っとく知識 改訂2版」の販売
- (5) 「Q&A容器包装規制基準の手引き」誌の編纂
- (6) 機関誌「包装技術」の電子データアーカイブ化

第2. 諸 会 議

- 1) 理事会
第1回：5月20日(水)
第2回：6月12日(金)
第3回：11月26日(木)
第4回：3月18日(木)
如水会館

- 2) 常務理事会
第407回：5月13日(水)
第408回：10月28日(水)
第409回：2月
Web会議・JPI会議室

- 3) 全国支部連絡会 9月・3月

- 4) 本部・支部諸会議
本支部単位で運営委員会・講習会委員会等を逐次開催
①東京本部 (研修教育) 包装専士講座研修委員会、包装管理士講座研修委員会、WEBフォーラム委員会、包装懇話会幹事会、各種セミナー企画委員会、他
(展示会) 東京国際包装展実行委員会
(調査研究) ISO/TC122委員会、JIS委員会、包装統計委員会(12月)他
(出版) 月刊機関誌「包装技術」編集委員会(毎月)

- ②関西支部 役員会 5月28日(木)、運営委員会 9月11日(金)・3月12日(金)
生活者包装研究懇談会実行委員会 6月12日(金)・2月19日(金)
- ③中部支部 役員会 5月27日(水)、運営委員会 年2回/9月・3月
研究例会テーマ検討作業部会 10～12月(予定)
- ④西日本支部 運営委員会 上期と下期に個別連絡にて報告
- ⑤北海道支部 運営委員会 年2回/5月20日(水)・10月
- ⑥東北支部 運営委員会 年3回/5月21日(木)・9月 WEB・3月

第3. 行事・その他の活動

1) 行事

- (1) 第15回定時総会 6月12日(金) 如水會館
- (2) 新年会
 - 東京本部 2027年包装界合同新年会 1月6日(水) 東京會館
 - 関西支部 2027年新春会員交流会/講演会 1月15日(金) 大阪俱樂部
 - 中部支部 2027年新年賀詞交歓会 1月21日(木) 名古屋マリオットアソシアホテル
 - 北海道支部 2027年新年賀詞交歓会/新春研究会 1月予定 ニューオータニイン札幌
 - 東北支部 2027年新年名刺交換会/新春講演会 2月8日(月) 江陽グランドホテル

2) 会員交流会・支部特別講演会

- 関西支部 総会 5月28日(木)
- 中部支部 総会 6月23日(火)
- 西日本支部 総会 8月予定
- 北海道支部 総会 7月8日(水)、1月会員交流会(新包装管理士)

3) その他の活動

- (1) Webサイトによる最新情報の提供 ホームページ定期更新12回ほか逐次情報発信
協会公式ホームページ、展示会専用ホームページ、SNS (facebook)
- (2) Eメールによる協会活動内容の国内配信 JPI メールマガジン 12回
- (3) JPI 関連団体との連絡提携
日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、
技術士包装物流会、日本包装学会、日本 MH 協会 他
- (4) 行政機関要請への協力と連携、研究機関、消費者団体、市民団体等との連携
経済産業省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、消費者庁、東京都、横浜市、
福岡県循環推進課、(地独)大阪産業技術研究所、兵庫県工業技術センター、
あいち産業科学技術総合センター 他
- (5) その他
要請内容について随時判断